

第5回当別町地域公共交通活性化協議会 議事録

日時：平成21年1月13日 10:00～

場所：当別町役場第二庁舎 2階会議室

出席委員 18名、欠席委員 5名、オブザーバー 2名(代理)、傍聴人 2名

1 開会 (司会：増輪事務局長)

2 会長挨拶 (近藤会長)

ふれあいバスも3年目の実証運行を迎え、運行収入・利用者数は過去2年間を上回る結果となった。本日は、本年度計画事業の報告と、4月1日に予定しているダイヤ改正と事業実施の効果について審議いただきたい。

3 報告 (事務局)

(1) 当別ふれあいバス 平成20年12月までの実績について(資料1-1~1-3)

市街地循環線降順、お買い物ふれバが乗客率が低い。SuiSui ふれバも利用者数が少ない。土曜日の利用者が少ない。

乗降客については横ばいであるが、金沢線については過去2年より延びている。11月の利用者数が過去2年より少なくなっているのは、平日が18日しかなかったことが原因。これに伴い、11月の収入も減っているが、累計では過去2年を上回っている。

運行収入は、11月に落ち込んでいるが、それ以外は前年を上回っている。今年度は一千万円を越える見通し。

質疑

(1)の報告について、質疑はなし。

(2) ニュースレターの発行について(資料2)

10月に協議会を行った後、2号発行している。

11月の第4号はA3両面刷りに拡大し、廃食油回収キャンペーンを中心にBDFに関する記事を掲載。12月号では、廃食油回収場所の拡大、回収用ボトルの配布などについての記事を掲載。今後は2月・3月の2号を発行予定。

質疑

(2)の報告について、質疑はなし。

(3) 小中学生向けモビリティマネジメントの実施について(資料3)

使用済み天ぷら油で走るバスについて、町内小学校5年生に対し延べ215名に対して授業を実施。授業を受けた5年生に対し、環境・自然に関する絵を描いてもらい、バス車内に展示する車内展示会を開催予定。1月15日に弁華別中学校で授業予定。

質疑

(3)の報告について、質疑はなし。

(4) 廃食油回収キャンペーンの結果について (資料4)

11月のキャンペーン当初は3箇所の回収拠点でスタートしたが、12月に3箇所を追加して6箇所の拠点とバス車内で回収。12月では例年の月平均の6倍の回収量があった。

回収に応じて回数券を配ったが、キャンペーン以降も使用できる。

帯広市で同様の事例があるが、回収を始めてから徐々に増えている実績があるので、今後も回収量が伸びると思われる。

質疑

(4)の報告について、質疑はなし。

(5) 二酸化炭素排出権取引のモデル事業公募について (資料5-1~5-4)

環境省で国内の二酸化炭素排出権を売買する仕組みを構築する準備を進めているが、その中で、取引できる事例のモデル事例を環境省で募集した。ふれあいバスは廃食油から精製するバイオディーゼル燃料を使用しているが、これが二酸化炭素排出権の削減効果がある。

ふれあいバスの事例をモデル事業として申請するが、11月に募集を開始して、12月5日に締め切りであったため、事務局で判断して申請した。

これが進むと、ふれあいバスで削減した二酸化炭素を売ることができる。

申請に当たっては、(株)エコノスに手続きを代行してもらった。また、売れるようになったら売買の仲介もしたいと申し出があった。北海道で売買の実績があるのは、エコノスのみ。

質疑

(5)の報告について、質疑はなし。

(6) 冬季OD調査の結果(速報値)について (資料6) 北海道開発技術センター大井が説明
性別は6割強が女性、4割弱が男性。

一番利用者が多かったのが西当別・あいの里線。多い年齢層は学生と高齢者の中間のいわゆる生産人口にあたる一般。その次に学生。

次に多かったのは金沢線。利用者の大部分は学生で、ほとんどが無料チケット。往路より復路が多かった。

市街地循環線、みどり野・青山線は高齢者が多かった。その内、市街地循環線はとうべつ整形外科の利用者が多い。みどり野・青山線はフリー乗降区間の利用が多い。

平日・休日では、平日よりも利用者は減っている。土曜日より日曜日が利用者が少ない。

質疑

(6)の報告について、質疑はなし。

5 議事（事務局）

（1）平成21年4月1日付けダイヤ改正について（資料7-1～7-5）

乗客数が伸びなかったお買い物ふれバを廃止する。市街地循環線に振り替える。

小中学校向けのダイヤを創設する。朝と午後の2時間ずつ、バスを増やして増便する。

市街地循環線の白樺緑地と当別駅南口の間で「当別小学校」を経由する。

市街地循環線のホテルANDOを「オープンサロン」に移動・変更する。

市街地循環線栄町方面の所要時間を30分から25分に短縮する。

金沢線の所要時間を10分から12分に延長する。

みどり野線15時台の便を青山線に振り替える。

小学生・障害者・介護人に対する100円の回数券を作成する。

小中学生向けに割引率の高い夏休み・冬休み限定定期を作成する。

市街地循環線について、朝と午後の増便した時間帯を一台のバスで昇順又は降順を連続で運行することと、市街地循環線の乗り越しを可能とすることで、利便性を向上させる。

質疑

質問：小林篤副会長（北海道運輸局札幌運輸支局首席運輸企画専門官）

補助を受けている間の実証運行としているが、補助が無くなったらやめるのか。

回答：鰐淵主任

実証運行を行い、利用者が増えたら本格運行時に引き続き運行する。

（2）計画事業に係る事後評価について（資料8）

年度内の事後評価のため、計画事業の実施状況を見ながら、評価調書の作成については事務局に一任いただき、追って皆様に報告させていただく。

質疑

（2）の議事について、質疑はなし。

（3）今後のスケジュールについて（資料9）

1月下旬に事業実施状況評価を提出予定。3月上旬から中旬にかけて、次年度の補助交付申請のため、事業計画・予算の審議を行う予定。

質疑

（3）の議事について、質疑はなし。

6 その他（事務局）

次回協議会は来年3月上旬から中旬を予定しているので、ご協力願いたい。

7 閉会（近藤会長）